

なぜ、展示室に飲食物を持ち込んではいけないの

▲西都原考古博物館の入り口に「館内禁煙」、「飲食物の持ち込み禁止」、「動物の持ち込み禁止」、「フラッシュ・三脚を使つての写真撮影禁止」の注意事項をサイン表示した案内板がある。皆さんの中には、博物館や美術館のスタッフから「傘は傘立てに預けてください」、「ガムを噛んだままでは入室できません」、「ペットボトルはバックに入れてください」、「メモはボールペンでなく鉛筆を使つてください」などと声掛けをされた経験はないだろうか。博物館や美術館で



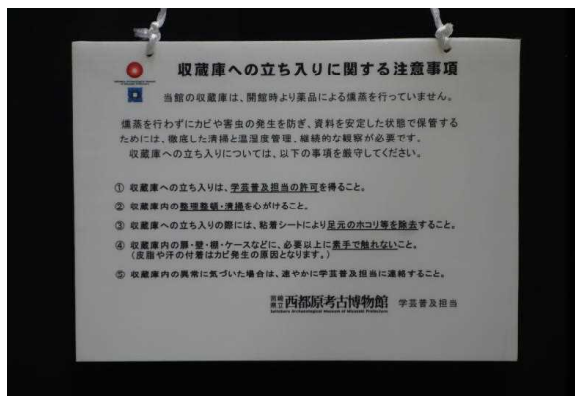
西都原考古博物館の注意事項サイン

は利用の際のいろいろな注意事項がある。もちろん、それぞれにはちゃんとした理由がある。

▲例えば、傘を展示室に持ち込むと、あやまって傘の先端で資料に傷をつけたり、壊してしまうかもしれない。資料の解説をメモするときボールペンを使うとインクで資料を汚してしまうかもしれない。資料を傷つけないためのお願いである。

展示室でジュースを飲んだりお菓子を食べたりすると、ジュースをこぼしたりお菓子のくずを床に落ちてしまうことがある。そのままにしておくと虫が寄ってきたり、カビが生えたりする。虫の中には紙や繊維、木材などを食べたり、糞で資料を汚す害虫がいる。カビも付着すると資料を汚してしまう。資料を害虫やカビなどの被害から守るためのお願いである。動物や花木からも虫が館内に入り込んでしまう可能性があるため持ち込みは禁止である。

▲考古博物館の収蔵庫入り口にも学芸員向けに「①収蔵庫内の整理整頓・清掃に心がけること。②収蔵庫への立ち入りの際には面着シートで足下のホコリ等を除去すること。③収蔵庫内の扉・壁・棚などには必要以上に素手で触れないこと(注)」と書かれた注意書きが掲示してある。収蔵庫の中に害虫やカビを持ち込ませない、収蔵庫の中で害虫やカビを発生させないための注意事項である。



都原考古博物館収蔵庫入り口の注意書き

▲これら来館者や学芸員向けの注意事項は、博物館資料を後世に守り伝えていくための大切な約束事である。皆さんも注意事項を守って博物館を楽しく利用することで、博物館資料を守り伝えていく活動の一翼を担っているのである。

なお、フラッシュや三脚を使つての写真撮影禁止は、フラッシュの光が資料に影響することもあるが、ほかの来館者に迷惑にならないためのお願いである。考古博物館ではフラッシュや三脚を使わなければ写真を撮っても大丈夫である。ぜひ、インスタ映えする写真を撮ってSNSに載せてみてはどうか。

(注) 手についた皮脂や汗が壁などに付くとカビの原因となり、カビを食べる虫のえさとなってしまう。

(永友)